

山王若宮Ⅱ遺跡

老人保健施設増築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2000

前橋市埋蔵文化財発掘調査団



1. 山王若宮Ⅱ遺跡出土遺物



2. 山王若宮遺跡出土遺物

序

前橋市は、北に赤城山、西に榛名山、南西に妙義山の上毛三山がそびえ、その赤城山と榛名山の裾野の間を南北に利根川が流れる水と緑にあふれた地であります。

前橋は古代より豊かな文化あふれる地であり、東日本でもきわだった内容を示しています。今から2万8千年前の旧石器を始めとして、10基を数える国指定の古墳、関東の華とうたわれた前橋城に関するものなど多くの文化財が残されています。

自然環境に恵まれたこの地では、古代からの人々の生活の跡が市内ほぼ全域にわたって残されています。古代の人々が暮らした家の跡、使った石器や土器などの道具、水田跡なども多く、毎年の埋蔵文化財発掘調査により多くの新しい発見があります。

山王町周辺は、前橋市南部に達なる広瀬・朝倉古墳群の一角にあたり、今までの調査でも古墳や同時代の住居跡等が発見されています。

本年度の山王若宮Ⅱ遺跡は、平成9年度に発掘調査が行われた山王若宮遺跡に隣接しており、老人保健施設増築に伴う発掘調査として古墳時代の住居跡・溝跡などの遺構を検出し、地区の歴史解明に貴重な資料を得ることができました。

発掘調査にあたりまして、ご協力をいただきました医療法人社団 清宮医院 理事長 清宮和之氏、地元関係者、調査に従事されました皆様に感謝とお礼を申し上げます。

平成13年3月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

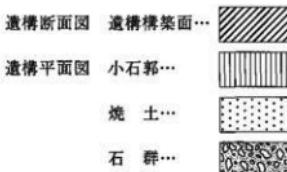
団長 阿部 明雄

例 言

1. 本報告書は、老人保健施設増築工事に伴う山王若宮II遺跡発掘調査報告書である。
2. 遺跡は、群馬県前橋市山王町128に所在する。
3. 調査は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団 団長 阿部明雄が医療法人社団 清宮医院 理事長 清宮和之と発掘調査委託契約を締結し実施した。
調査担当者及び調査期間は以下のとおりである。
発掘・整理担当者 小峰 篤・吉沢 貴（前橋市埋蔵文化財発掘調査団調査係）
発掘調査・整理期間 平成12年8月18日～平成13年3月23日
4. 本書の原稿執筆・編集は、小峰・吉沢が行った。整理作業をはじめ図版作成には、阿部シゲ子・神澤とし江・桐谷秀子・櫻井妙子の協力があった。
5. 発掘調査で出土した遺物は、当調査団より前橋市教育委員会に保管責任を依頼し、前橋市教育委員会文化財保護課収蔵庫で管理されている。

凡 例

1. 掘図中に使用した北は、座標北である。
2. 掘図に、建設省国土地理院発行の1/5万地形図（前橋、高崎）、1/2.5万地形図（前橋、高崎、伊勢崎、大胡）を使用した。
3. 本遺跡の略称は、12G18である。
4. 各遺構の略称は次のとおりである。
H…住居址、M…古墳、D…土坑、P…ピット、
K…掘立柱建物址、W…溝跡、O…落ち込み
5. 遺構・遺物の実測図の縮尺は、次のとおりである。
遺構 住居址、掘立柱建物址、土坑、溝跡、落ち込み…1/60、小石郭…1/20、
全体図…1/100
遺物 土器、埴輪…1/3
6. スクリーントーンの使用は次のとおりである。



— 目 次 —

序	i
I 調査に至る経緯	1
II 遺跡の位置と環境	
1 遺跡の立地	1
2 歴史的環境	2
III 発掘調査の方針と経過	
1 調査方針	5
2 調査経過	5
IV 層序	6
V 遺構と遺物	7
VI まとめ	9

図 版

口絵 1 山王若宮Ⅱ遺跡出土遺物

2 山王若宮遺跡出土遺物

PL. 1 山王若宮Ⅱ遺跡全景、H-1~3号住居址、D-1・2号土坑

2 D-3号土坑、小石碑全景、H-1・2号住居址出土遺物

3 H-1・2号住居址出土遺物

4 H-2号住居址、W-1・2号溝、O-1号落ち込み出土遺物

挿 図

Fig.	頁	Fig.	頁
1 山王若宮Ⅱ遺跡位置図	iv	2 位置図と周辺遺跡図	3
3 山王若宮Ⅱ遺跡調査区設定図	4	4 基本層序	6
5 山王若宮Ⅱ遺跡全体図	13	6 H-1号住居址	15
7 H-2・3号住居址、D-1号土坑	16	8 D-2・3号土坑、K-1号掘立柱建物址	17
9 M-1号墳周縁、小石碑	18	10 W-1~3号溝、O-1・2号落ち込み	19
11 H-1・2出土遺物	20	12 H-2出土遺物	21
13 H-2、W-1・2、O-1、 グリッド出土遺物	22		

表

Tab.	頁	Tab.	頁
1 土器観察表	11	2 墓輪観察表	12

調査参加者（順不同）

阿部シゲ子、神澤とじ江、桐谷秀子、横井妙子、奈良岩雄、高橋 孜、古沢 実、原田要三

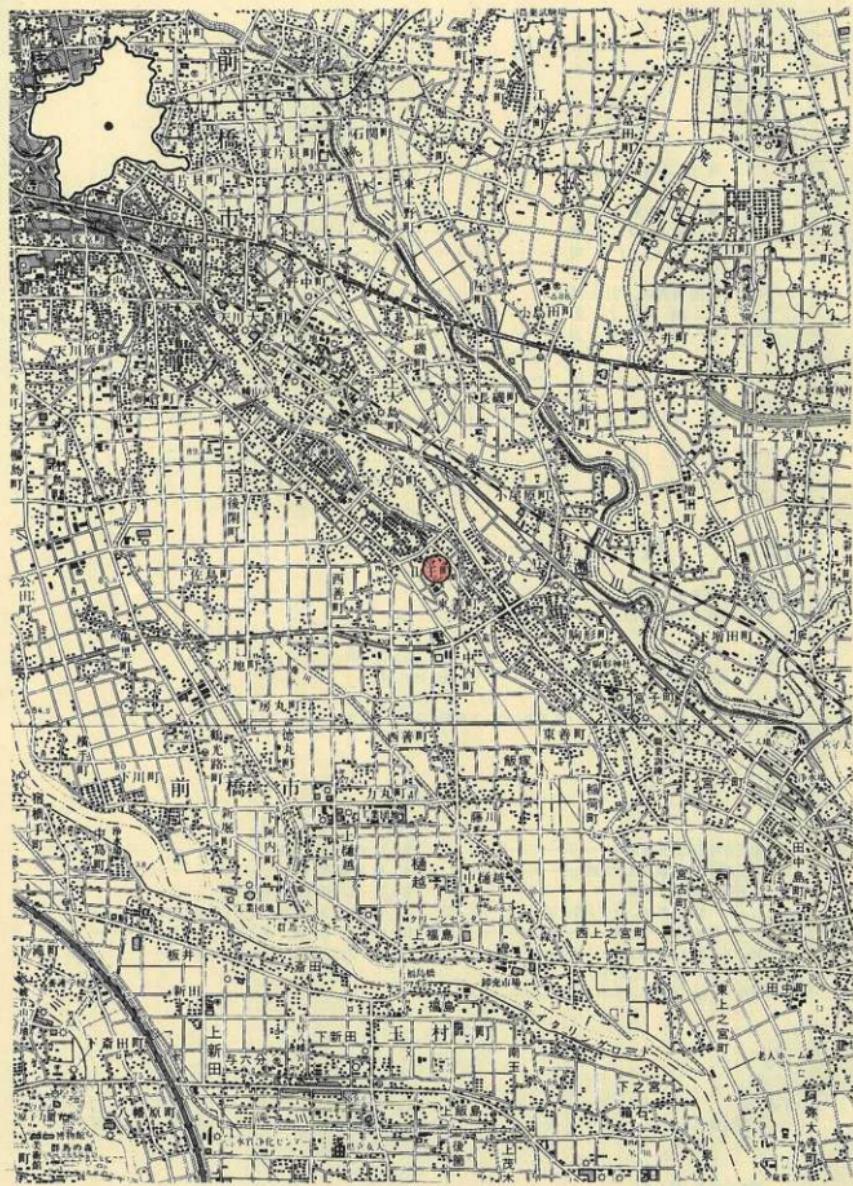


Fig. 1 山王若宮Ⅱ遺跡位置図

I 調査に至る経緯

本遺跡の発掘調査に関して、平成12年7月28日付けで医療法人社団 清宮医院 理事長 清宮和之より山王町地内の老人保健施設（山王ライフ）増築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査依頼が、前橋市教育委員会に提出された。本調査地は、平成9年度に本施設の建設にあたり発掘調査を実施した個所に隣接しており、遺跡地であることが予想された。

前橋市教育委員会では、これを受け内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団 団長 阿部明雄に対し、調査実施を通知し、調査団でこれを受諾した。その後、平成12年8月11日、調査依頼者である医療法人社団 清宮医院 理事長 清宮和之と前橋市埋蔵文化財発掘調査団 団長 阿部明雄との間で、本発掘調査の委託契約を締結した。現地での発掘調査は、8月18日から重機を投入し、開始するに至った。なお、遺跡名称「山王若宮Ⅱ遺跡」の「若宮」は旧地籍の小字名を採用し、ローマ数字の「Ⅱ」は平成9年度に実施した調査と区別するため付したものである。

II 遺跡の位置と環境

1. 遺跡の立地

山王若宮Ⅱ遺跡は、前橋市街地より南東へ約6km、前橋市立山王小学校と道を隔てた北側の前橋市山王町128に位置する。前橋市は、地質・地形から東北部の赤城火山斜面、南西部の前橋台地、東部の広瀬川低地帯、そして南部の現利根川氾濫原の四つの地域に分けられる。本遺跡は前橋台地の東端部にあり、微高地である。調査区の東には旧利根川河川敷の広瀬川低地帯が広がっていることから、南東方向に僅かに下っている。

調査区周辺はかつて、一面水田の広がる農村地帯であったが、宅地開発や幹線道路の整備等に伴い、現在は調査区西側に水田を残す程度である。本遺跡が所在する山王町、北に広がる朝倉町や特に広瀬町内では、高層の市営住宅などが建設されている。市街地に比較的近いこともあり開発造成が進んでいるが、過去の開発などによってこの地域に数多く存在していた古墳や遺跡が本格的な調査を経ずして平夷されてしまったという残念な面もある。

周辺を走る主要幹線としては、南へ約700m程のところに県道高崎駒形線が走る。交通量は、市内でも1、2位を誇る程的主要路でファミリーレストランなどのロードサイド店が多く立ち並び、最近では、より大規模なスーパーなどが進出するなど、開発事業が目立っている。さらに、南下すると現在建設中の北関東自動車道があり、インターチェンジも近くに設置されるなどから、さらなる整備・開発が進むものと思われる。

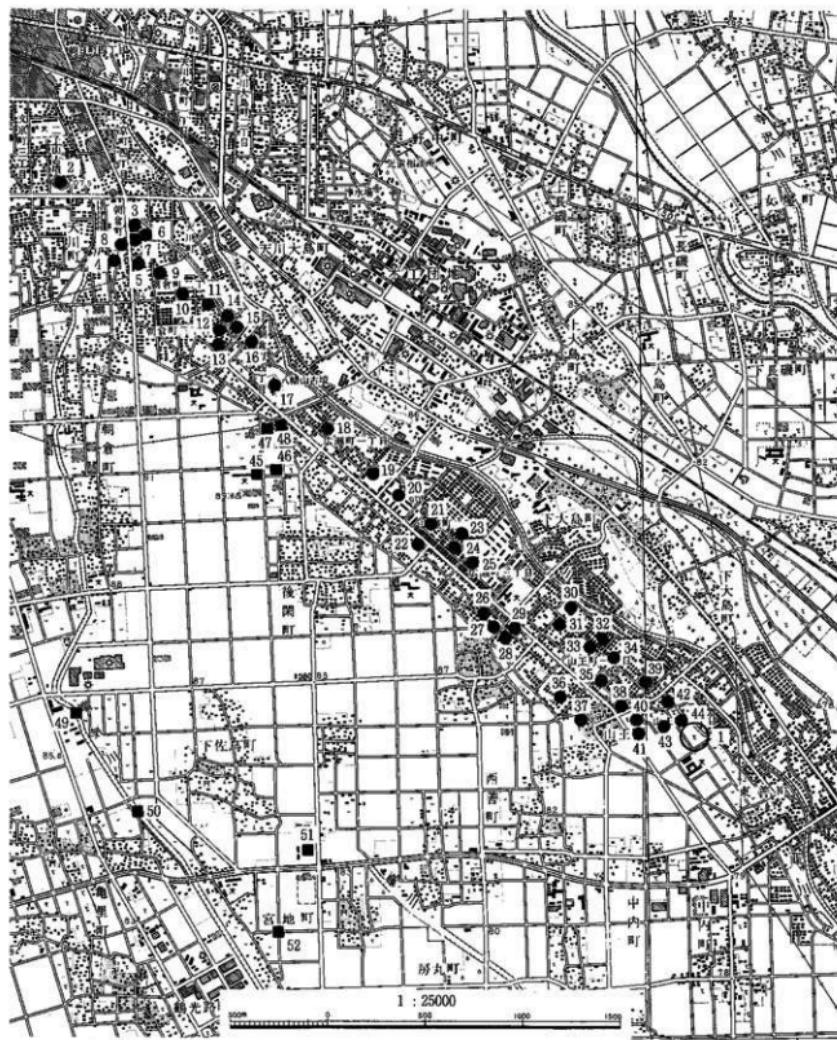
2. 歴史的環境

本遺跡周辺は、前橋市内だけにとどまらず群馬県内でも有数の古墳分布地帯「広瀬古墳群」に属する。「広瀬古墳群」は、朝倉町を中心とする地域、広瀬町を中心とする地域、そして山王町を中心とする地域の大きく三つに分けられる。昭和13年発行の「上毛古墳綜覧」によると、当地域の昭和10年古墳調査で154基が確認されている。しかし、その多くは戦中・戦後の開墾などにより調査することなく平夷されてしまった。したがって、調査によりその全容が明らかとなっているものや、当時のままの姿を残しているものは極めて少ない。

本遺跡の属する山王地域に限定すると、先述した「上毛古墳綜覧」によると34基の古墳が存在していたと記されている。しかし、開発・造成の進んだ現在では、本遺跡の北西約300mのところに金冠塚古墳、文珠山古墳、阿弥陀山古墳がその形をとどめる程度である。

時代を追って見てみると、まず古墳時代前期（4世紀後半）では群馬県内でもその時代を代表するものとして有名な八幡山古墳と前橋天神山古墳がある。前者は全長約130mの前方後方墳、後者は全長約128mで、県内最古の前方後円墳である。前橋天神山古墳からは、三角縁四神四獸鏡をはじめとする豊富な副葬品が出土し、県内最古の地域首長墓として注目される。次に古墳時代中期（5世紀代）の古墳となると数が少なく明確なものが少ないが、そんな中、群馬県内でも貴重な帆立貝式古墳が、亀塚山古墳である。さらに時代は降って古墳時代後期（6世紀代）になると、古墳の造営が再び活発化し、多くの古墳が造られた。その中でも有名なのが、県内でも例がない金銅製の冠が出土した金冠塚古墳である。

住居址関係では、古墳時代前期（石田川期）の後園田地遺跡、古墳時代後期（鬼高期）の後園II遺跡、坊山遺跡が報告されている。ただ、古墳同様に未調査のまま平夷されたものが多く本格的な調査は数少ない。



1. 山王若宮三遺跡
2. 燐嶽二子山古墳
3. 朝倉天神山古墳
4. 朝倉市古墳
5. 上川瀬19号墳
6. 上川瀬26号墳
7. 朝倉町内御船
8. 小豆郡古墳
9. 朝倉2号墳
10. 岩山古墳
11. 朝倉3号墳
12. 朝倉4号墳
13. 鶴巣塚古墳
14. 鷺石古墳
15. 朝倉天神山古墳
16. 上川瀬6号墳
17. 八幡山古墳
18. 駒ヶ根神山古墳
19. 上川瀬11号墳
20. 大堀敷古墳
21. 上川瀬15号墳
22. 行人塚古墳
23. 上川瀬二子山古墳
24. 魔鬼山古墳
25. 鶴巣山古墳
26. 上川瀬24号墳
27. 包食塚古墳
28. 朝倉27号墳
29. オトカ塚古墳
30. 魔鬼山古墳
31. 上川瀬34号墳
32. 金泥塚古墳
33. 大堀丘古墳
34. 山王大堀古墳
35. 金泥塚古墳
36. 上川瀬13号墳
37. 楠葉寺東墓古墳
38. 上川瀬15号墳
39. 上川瀬17号墳
40. 阿云蛇山古墳
41. 佐野塚古墳
42. 上川瀬12号墳
43. 狐塚古墳
44. 後園II遺跡
45. 後園遺跡
46. 後園II遺跡
47. 東開田地遺跡
48. 佐野塚古墳
49. 下佐野遺跡
50. 稲荷内城内遺跡
51. 東田遺跡

Fig. 2 位置図と周辺遺跡図



Fig. 3 山王宮II遺跡調査区設定図

III 発掘調査の方針と経過

1. 調査方針

今回委託された調査箇所は、現在立地する老人保健施設（山王ライフ）に隣接する増築部分で、調査面積は275m²である。グリッドについては、4mピッチで西から東へX1、X2、X3、・・・、北から南へY1、Y2、Y3、・・・と番付し、グリッドの呼称は北西杭の名称を使用した。

X3・Y14グリッドの公共座標は、

第IX系 X = +38,744.000m、Y = -63,338.000m

緯度36°20'49".7470、経度139°07'39".3618

子午線収差角25°05".8、増大率0.999949である。

調査方法については、表土掘削・遺構確認・杭打ち・遺構掘り下げ・遺構精査・遺構測量・全景写真撮影の順序で行うこととした。

図面作成は、平板・簡易通り方測量を用い、住居址は1/20の縮尺、小石櫛は1/10の縮尺で作成した。遺構の遺物については平面分布図を作成し、遺物台帳に各種記録をとりながら収納した。包含層の遺物は、グリッド単位で収納したが、重要遺物については分布図・遺物台帳の記録を行い収納した。

2. 調査経過

平成12年8月18日に重機（バックフォー0.4m³）を投入して表土の掘削を開始した。平成9年度に調査した結果を参考に地表面から約60cm掘り下げたところにぶい黄褐色のローム面を確認した。8月21日から調査区東から鏝簾をかけ、プラン確認を行った。その結果、住居址3軒、掘立柱建物址1棟、溝3条などを検出した。住居址が重複している箇所は、サブトレーンチを入れるなどして確認を試みた。

遺構確認を終えた後、調査区内にグリッド杭・ベンチマークの設置を行った。8月から9月という時期で、夕立ちによる調査区の水没を懸念したが概ね天候は良好でなおかつ調査地の水捌けも良かったことも手伝い、多少の雨でも調査を続行することができた。9月に入り遺構の精査、平板測量、遺構写真撮影を行った。なお、調査区の全景写真は、隣接する老人保健施設山王ライフの屋上を借り撮影させていただいた。その後、出土遺物の洗浄等を行い現地調査の全てを終了した。

整理作業については、前橋市三俣町に所在する前橋市教育委員会文化財保護課整理作業室にて行った。

IV 層序

本遺跡の立地する前橋台地は、今から約2万年前の浅間山山体崩壊に起因する泥流堆積物とその上に堆積する水成ローム層により構成されている洪積台地である。

遺構構築面は、にぶい黄褐色土で各遺構はAs-C軽石を含む黒褐色土に覆われている。本調査での基本層序は調査区北壁のH-2・3号住居址の間で確認した。

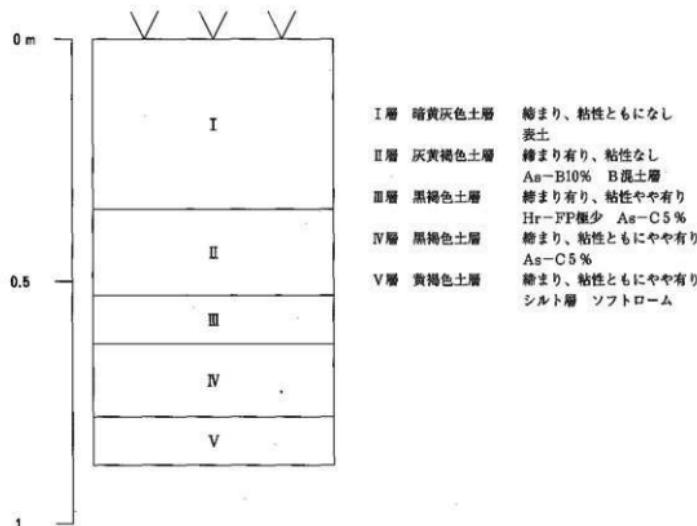


Fig. 4 基本層序

V 遺構と遺物

(1) 住居址

H-1号住居址 (Fig. 6・11 PL. 1・2・3・4)

◎位置 X 3~5、Y 12~14グリッド ◎面積 31.27m² ◎方位 N-32°-W ◎形状 東壁が調査区外のため確認できないが、ほぼ正方形を呈す。長軸5.91m 短軸5.53m 壁高26cm。 ◎床面 平坦な床面。南隅に貯蔵穴1基を検出。 ◎ピット 南隅に1箇所検出。 ◎炉址 住居址内ほぼ中央部に径が35~50cmの不定形の範囲で焼土を検出。焼土の位置や範囲から炉址と思われる。 ◎遺物 石田川式土器片など総数1,070点 ◎重複 H-2号住居址と北西隅で重複する。本遺構の方が新しい。 ◎備考 覆土や出土遺物から本住居址は4世紀半ばと考えられる。

H-2号住居址 (Fig. 7・11・12・13 PL. 1・2・3・4)

◎位置 X 1~3、Y 12~13グリッド ◎面積 20.54m² ◎方位 N-58°-E ◎形状 住居北側半分が調査区外のため確認できないが、方形を呈す。長軸5.93m 短軸3.63m 壁高25cm ◎床面 ほぼ平坦な床面。南西隅に貯蔵穴を1基検出。 ◎ピット 検出されず。 ◎炉址 住居址の中央からやや西よりで径が70~110cmの不定形な範囲で焼土を検出。明瞭ではないが焼土の位置や範囲から炉址と思われる。 ◎遺物 石田川式土器片、布留式土器片など総数583点 ◎重複 H-1号住居址と南東隅で重複する。本遺構の方が古い。 ◎備考 覆土や出土遺物から本住居址は、4世紀前半と考えられる。

H-3号住居址 (Fig. 7 PL. 1)

◎位置 X 3、Y 11グリッド ◎面積 0.95m² ◎方位 N-68°-E ◎形状 本住居址の大半が調査区外のため確認できなかった。長軸1.30m 短軸0.65m 壁高17.5cm ◎床面 平坦な床面。 ◎遺物 総数19点

(2) 掘立柱建物址

K-1号掘立柱建物址 (Fig. 8)

◎位置 X 3~4、Y 13~14グリッド ◎面積 15.69m² ◎方位 N-29°-W ◎形状等 南北4.55m、東西3.58mの長方形を呈す。柱間寸法は、P₁・P₂間2.33m、P₂・P₃間2.27m、P₃・P₄間3.58m、P₁・P₄間2.23m、P₁・P₅間2.32m、P₅・P₆間3.53mを測る。 ◎柱穴 6基の柱穴を検出。長径55~80cm、短径45~68cm、深さ37.5~70.5cm、底面標高80.29~80.61mを測る。ほぼ円形の平面を呈し、場方の断面は円筒形に近い。 ◎遺物 なし

(3) 古墳

M-1号墳 (Fig. 9 PL. 2)

調査区西部、X 0~3、Y 12~15グリッドに位置し、古墳東部の1/3程が調査区内で確認できるのみで、大半は調査区外である。後世の耕作等による削平で墳丘は平坦になっている。周堀についても、明瞭な形を止めておらず、調査区内を南北方向に僅かに西に湾曲する形で検出されている。出土遺物についても、円筒埴輪片が数点発見されたのみである。

(4) 土 坑

D-1号土坑 (Fig. 7 PL. 1)

◎位置 X 3~4、Y12グリッド ◎形状等 楕円形。長径1.48m、短径74cm、深さ16cmを測る。◎遺物 総数11点

D-2号土坑 (Fig. 8 PL. 1)

◎位置 X 2~3、Y13グリッド ◎形状等 楕円形。長径3.20m、短径60cm、深さ26.5cmを測る。◎遺物 総数30点

D-3号土坑 (Fig. 8 PL. 2)

◎位置 X 3、Y13~14グリッド ◎形状等 楕円形。長径2.15m(推定)、短径96cm、深さ29cmを測る。◎遺物 総数13点

(5) 溝 跡

W-1号溝 (Fig. 10・13 PL. 2・4)

◎位置 X 2、Y13~14グリッド ◎方位 N-11°-W ◎形状等 調査区のはば中央に位置し南北に走る。上幅30~56cm、下幅12~28cm、深さ7.5~20cm、長さ6.14mを測る。◎重複溝北側がH-2号住居址に切られる。◎遺物 総数16点

W-2号溝 (Fig. 10・13 PL. 2・4)

◎位置 X 2~4、Y13~14グリッド ◎方位 N-84°-E ◎形状等 調査区のはば中央でL字型に曲がっている。上幅65~130cm、下幅38~80cm、深さ14.5~28cm、長さ9.75mを測る。◎遺物 総数147点

W-3号溝 (Fig. 10 PL. 2)

◎位置 X 0~1、Y14グリッド ◎方位 N-83°-E ◎形状等 調査区の西隅に位置し、東西に走る。上幅28~48cm、下幅8~19cm、深さ4~21.5cm、長さ6.89mを測る。◎遺物 総数18点

(6) 落ち込み

O-1号落ち込み (Fig. 10・13)

◎位置 X 2~3、Y14グリッド ◎形状等 ほぼ楕円形を呈す。長径235cm、短径183cm、深さ16.5cmを測る。◎遺物 総数72点

O-2号落ち込み (Fig. 10)

◎位置 X 0~1、Y13~14グリッド ◎形状等 楕円形を呈す。長径260cm、短径180cm、深さ7cmを測る。◎遺物 総数7点

(7) 小石郭 (Fig. 9 PL. 2)

◎位置 X 4、Y13グリッド (H-1号住居址内) ◎方位 N-80°-E ◎形状等 南西方向がやや幅が狭い台形を呈す。長径164cm、短径79cmを測る。◎遺物 なし

(8) グリッド出土遺物 (Fig. 13)

本遺跡遺構面からは小破片を含め、土師器片399点、埴輪片45点、石製品等3点の計447点である。

VI ま　と　め

今回の発掘調査区は現存する建物の増築部分、面積にして275m²という限られた範囲であつたにもかかわらず、住居址や古墳の周囲の一部などを検出できた。調査区内に大量の石（古墳に使用されたと考えられる）が投棄されている箇所があることからも、この地域には多くの古墳があったことをうかがわせる。出土遺物については、古墳が多数検出された平成9年度調査の様な、円筒埴輪片や形象埴輪片は殆ど無く、石田川式土器片を中心とした土師器であった。以下では、これらの出土遺物を伴う住居址を中心まとめてみたい。

○ 住居址

今回の調査では3軒の竪穴式住居址を検出した。壁高約17cmから25cmと残存状況は良好といえる。ただし、H-3号住居址については調査区北隅でその一部が僅かに検出されたのみであるので、ここではH-1・2号住居址について述べてみたい。

H-1号住居址は、東壁だけが調査区外のため確認できないが、一辺が約6mの正方形を呈している。柱穴と貯蔵穴が住居内南隅に検出されている。床面は平坦で、ほぼ中央に炉址と思われる焼土の範囲を検出。遺物については、石田川式土器片を中心に1,070点が出土している。口縁部に刺突痕を持つS字口縁片が、多く出土するS字口縁のなかでも目を引いた遺物であった。時期的にはその形状から4世紀半ばのものと思われる。

このH-1号住居址の北西隅で僅かに重複するのがH-2号住居址である。H-2号住居址も北側半分ほどが調査区外で、正確な形状などは不明であるが概ね方形を呈すものと思われる。長軸で約6m、短軸で約4m、壁高は25cmである。住居内に貯蔵穴を一ヵ所検出した他は、柱穴は確認できなかった。炉址についても、明瞭でなく焼土の量や検出位置などを考慮して、それと想定される程度であった。出土遺物は、H-1号住居址ほどではないが、石田川式土器片を中心に583点が出土している。なかでも注目すべき点は、本住居址から布留型壺の特徴を有する肩部から口縁部にかけての土器、また、連続山形文の赤色の塗彩が見られる土器の破片などが出土していることである。重複するH-1号住居址との新旧関係については、H-2号住居址出土の布留型壺が4世紀前半のものと考えられることから、H-2号住居址が先行するものと思われる。前橋台地が開発される最初の頃の遺物として注目される。

前橋台地の開発に当たって中核的な役割を果たした駿河湾沿岸地域の影響下にある石田川式土器に加えて畿内文化の影響をうかがわせる布留型土器の系譜に連なる土器片の混入は注目される。

○ 小石郭

H-1号住居址の東壁に接する位置で検出された。後世の削平等により石室上部の石積みは確認できなかった。石を全て取り除いたところ、H-1号住居の床面から約10cm程掘り込まれていた。使われた石材は河原石で、床面には長径が15cmほどの楕円形で平たい河原石を敷きつめている。ほぼ平らに敷かれている断面図を見ると僅かに東端が上向いている。2段目の石積みは東端部で検出できた。南北の断面図で見ると、北側壁をなす石は、長径約30cmの楕円形でやはり平たい河原石を使用している。南側も同等の大きさのもので

ある。河原石の最も小さい面積部分を壁面に出すいわゆる「小口積み」の手法をとっている。2段目の石は下半分ほどがH-1号住居の床面に埋没しているので、床面から最も高いところで約7cm程度である。頭位の幅は約30cm、長さは現存値で164cmを測る。規模的には、人体をぎりぎり囲うような形で石棺をつくっていたとみられる。天井石らしきものは確認できていないが、壁の高さは35cm内外になるものとみられ、その上に6~7個の蓋石が載る形が想定される。本調査区内では大量の石が投棄されたと思われる箇所があるので、後世に破壊され投棄された可能性も高い。

石材の扱い方から見て雑な傾向が見られる。年代的には確定する要素はないが、埋土や平成9年度調査結果などから6世紀のものと思われる。

◎ 堀立柱建物址

検出した堀立柱建物址は主軸方向をN-29°-Wにとる桁行2間、梁行1間の南北棟である。桁行2間の長さは4.5mで柱間は2.25mの等間である。梁間は3.6mの1間である。これで見ると桁行は15尺、柱間はそれを2等分している。梁間は12尺である。柱穴は径40cm内外の円形で底面は径30cm、深さは底面を揃えており南側の穴ほど浅くなっている。周辺にこの堀立と並行するような遺構はないが、4世紀の竪穴住居をきついていることから、それ以降のものであることがわかる。周辺からは石田川式土器片のみが出土している。また、柱穴の規模が小さく浅いことなどから小規模な建物が想定される。4世紀後半の竪穴住居に供伴するものであろうか。

(参考文献)

上毛古墳縦観	1938	群馬県
「前橋市史」第一巻	1971	前橋市史編さん委員会
中村遺跡	1986	渋川市教育委員会
新保田中村前IV遺跡	1994	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
銅と壺 そのデザイン	1996	東海考古学フォーラム尾張大会実行委員会
高崎情報団地遺跡	1997	高崎市遺跡調査会
「山王若宮遺跡」	1998	前橋市埋蔵文化財発掘調査団

Tab. 1 土器観察表

番号	出土位置	器形	大きさ		胎土	焼成	色調	残存	器形の特徴・成形・調整技術	Fig.
			口径	器高						
1	H - 1	台付甕	17.8	[4.3]	細粒	良好	にぶい 棕	口縁部 1 / 3	肩部横方向ハケ目。S字口縁、口縁下部に指突痕あり。腹部内面横方向ハケ目。口縁部横撫で。	11
2	H - 1	甕	(16.0)	[9.8]	細粒	良好	褐	口縁部 1 / 3	肩部-腹部斜め方向範囲調整。口縁僅かに内湾。横撫で。	11
3	H - 1	小型甕	(6.2)	[7.4]	中粒	良好	灰	胴部 1 / 4	肩部範囲に後撫で調整。口縁部直立気味に立ち上がり僅かに外傾。内面指圧痕あり。	11
4	H - 1	器台	-	[4.8]	細粒	良好	赤	褐 脚部 1 / 2	施削り後撫で調整。	11
5	H - 1	壺	-	-	粗粒	良好	黄 橙	胴部 破片	肩部外面に断面M字状の槽あり。その上下に波状の指突痕あり。	11
6	H - 1	土師甕	(14.2)	[6.4]	細粒	良好	にぶい 棕	口縁部 3 / 5	肩部範囲に後撫で調整。口縁部外傾し開き、施削り後撫で。内面施削り後撫で調整。	11
7	H - 1	壺	(18.8)	[3.0]	細粒	良好	暗赤 灰	口縁部 1 / 8	口縁端部内側に折り返される、折り返し口縁を呈す。内外面ともに施削き。	11
8	H - 1	甕	(14.0)	[4.1]	中粒	良好	灰	褐 口縁部 1 / 5	口縁外湾気味に立ち上がり、肩部垂直に立ち上がる。有段口縁。外面施削り横撫で調整。	11
9	H - 1	甕	(19.0)	[2.1]	細粒	良好	にぶい 黄橙	口縁部 1 / 8	口縁きつ外溝。口縁端部僅かに直立する。有段口縁。内外面とも施削り後撫で。	11
10	H - 1	器台	-	[3.4]	細粒	良好	明赤 褐	胴部 1 / 8	肩部に円形透孔あり。肩部内溝気味に外傾。口縁部外傾し開く。外面施削。内面施削。	11
11	H - 2	甕	12.1	[7.5]	中粒	良好	にぶい 黄棕	1 / 6	全体上位はあまり張らずなで形。頭部は屈曲し、口縁部中程でやや厚さを持ち、内沟気味に左方へのび、頸部は内側に肥厚する。端部は上側に面を持ち丸みを帯びておさめられ、端部下端の境は明瞭で留置腰溝部成形の特徴を持つ。	11
12	H - 2	台付甕	(15.5)	[19.4]	細粒	良好	褐 灰	1 / 3	肩部-底部下位に綫方向及び斜めハケ目。S字口縁。やや外反。内面指圧痕あり。口縁部範囲調整後撫で。台は欠損。	12
13	H - 2	台付甕	(15.0)	[5.2]	細粒	良好	にぶい 黄橙	口縁部 1 / 4	S字口縁。やや外溝。肩部綫方向ハケ目。口縁内面は横撫で調整。	11
14	H - 2	台付甕	(18.0)	[8.9]	中粒	良好	にぶい 黄橙	口縁部 1 / 4	肩部綫方向ハケ目。胴部上位斜め方向ハケ目。S字口縁。外傾。	12
15	H - 2	台付甕	(17.0)	[3.1]	細粒	良好	灰 白	口縁部 1 / 6	ゆるいS字口縁。肩部綫方向ハケ目。口縁内面横撫で。	12
16	H - 2	台付甕	-	[8.9]	細粒	良好	にぶい 棕	胴部 1 / 6	綫方向ハケ目。	12
17	H - 2	台付甕	-	[5.6]	細粒	良好	にぶい 棕	脚部のみ	綫方向ハケ目。台下部にスス付着。台端部は内側に折り返される。	12
18	H - 2	台付甕	-	[4.9]	細粒	良好	にぶい 棕	脚部 1 / 3	倒め方向ハケ目。	12
19	H - 2	台付甕	-	[4.3]	細粒	良好	灰 褐	脚部 1 / 2	綫方向ハケ目。脚下部範囲調整。	12
20	H - 2	台付甕	-	[3.0]	細粒	良好	にぶい 赤褐 底	部	綫方向ハケ目。	12
21	H - 2	壺	-	-	中粒	良好	にぶい 棕	胴部 片	肩部にボタン付紋二カ所あり。施削り後撫で。	12

番号	出土位置	器 形	大きさ		胎土	焼成	色 調	残 存	器形の特徴・成形・調製技法	Fig.
			口径	器高						
22	H - 2	壺	(26.2)	[5.3]	細粒	良好	にぶい黄褐	口縁部1/6	口縁外溝し、中程で垂直気味に立ち上がり、ゆるやかに外溝。二重口縁。頸部に僅かに縱方向ハケ目。内外面ともに施削り後模撫で。	12
23	H - 2	壺	(9.0)	[5.8]	細粒	良好	にぶい 橙	1 / 3	縁部上位に僅かに縱方向ハケ目あり。口縁や外縁気味に直立。縱方向ハケ目が見られるものの、撫で調整。口縁・底部にスッペラ。	12
24	H - 2	小型壺	(10.2)	[4.0]	細粒	良好	にぶい 黄	1 / 8	口縁部僅かにS字を呈す。外板。肩部丸みを帯びる。外面撫で調整。	12
25	H - 2	器 台	-	[2.6]	細粒	良好	橙	脚 部 1 / 3	丸形透孔三ヵ所あり。脚部上位スス付窓。内面に見ぶ。	12
26	H - 2	壺	13.4	[8.0]	細粒	良好	桃	1 / 4	肩部・脚部施磨き後撫で。脚部一口縁全体斜め方角ハケ目あり。口縁外縁模撫で後脚突痕が周囲に連らされている。やや外溝し開く。口縁内面模撫向ハケ目。脚部内面横方向ハケ目あり。	12
27	X 1, Y13	台付壺	-	[6.3]	細粒	良好	にぶい黄橙	脚 部 1 / 3	脚部上位ハケ目僅かにあり。脚部下位撫で調整。脚部は内面に折り返される。スス微量に付着。	13
28	O - 1	台付壺	(17.0)	[2.8]	細粒	良好	桃 灰	口縁部1 / 4	肩部横方向ハケ目。S字口縁。外板。口縁端部模撫で。口縁内面模撫で。	13
29	O - 1	壺	(16.4)	[4.0]	細粒	良好	にぶい赤褐	口縁部1 / 10	口縁さしつく外溝し、穧いコの字状。外縁範調整。内面模撫で。	13
30	O - 1	高 壕	-	[7.1]	細粒	良好	にぶい赤褐	脚 部 3 / 4	施削り後撫で調整。円形透孔三ヵ所。内面施磨き。	13
31	O - 1	台付壺	(16.6)	[4.8]	中粒	良好	赤 灰	口縁部1 / 5	肩部縦方向ハケ目及び横方向三本ハケ目。S字口縁。内面模撫で。	13
32	W - 1	ミニチュア 土 器	-	[5.0]	細粒	良好	桃 灰	2 / 3	脚部丸みを帯び、底部は平底。底径小さい。外面撫で調整。	13
33	W - 2	壺	(19.2)	[9.0]	細粒	良好	にぶい 橙	口縁部～脚部1 / 10	脚部施削り後撫で。口縁や外側。中程からより外傾し開く。指圧痕あり。撫で調整。内面模撫で。	13
34	X 1, Y13	器 台	-	[4.8]	中粒	良好	明赤 桃	脚 部 1 / 2	円形透孔三ヵ所。施磨き。	13

注) 我の表記は以下の基準で行った。

① 胎土は、細粒(0.9mm以下)、中粒(1.0~1.9mm)、粗粒(2.0mm以上)とした。

② 焼成は、施釉、施瓦、良好、不良の三段階。

③ 色調は土器外面で観察し、色名は新編標準土器色帖(小山・竹原1976)によった。

④ 大きさの単位はcmであり、現存値を[]、復元値を()で示した。

Tab. 2 墓 輪 観 察 表

番号	出土位置	形 性	大きさ		突 痕	透孔	胎土	焼成	色 調	残存	ハケメ 本 / 2 cm	成 形・整 形 の 特 徴	備考	Fig.
			① 口径	② 器高 ③ 底径										
1	H - 2	普通円筒	—	② [7.4] ③ (13.0)	—	—	中粒	良好	橙	基 部 1 / 6	10	外面：施ハケ目 内面：撫で		13
2	X 1 Y13	普通円筒	—	③ [10.0]	○	—	中粒	良好	橙	脚部片	4	外面：施ハケ目 突帯断面 M字形を呈す		13
3	X 0 Y13	普通円筒	—	② [8.0] ③ (12.3)	—	—	中粒	良好	にぶい 橙	基 部 1 / 6	8	外面：施ハケ目 内面：模撫で		13

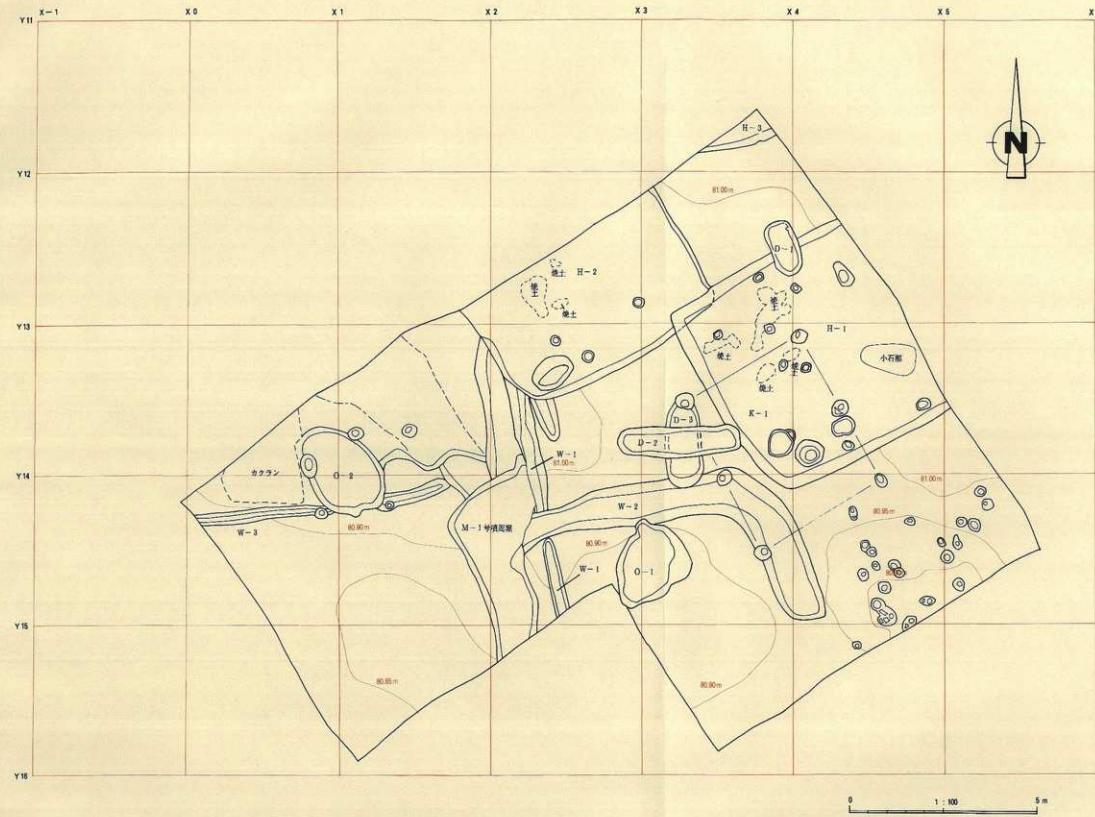


Fig. 5 山王若宮Ⅱ遺跡全体図

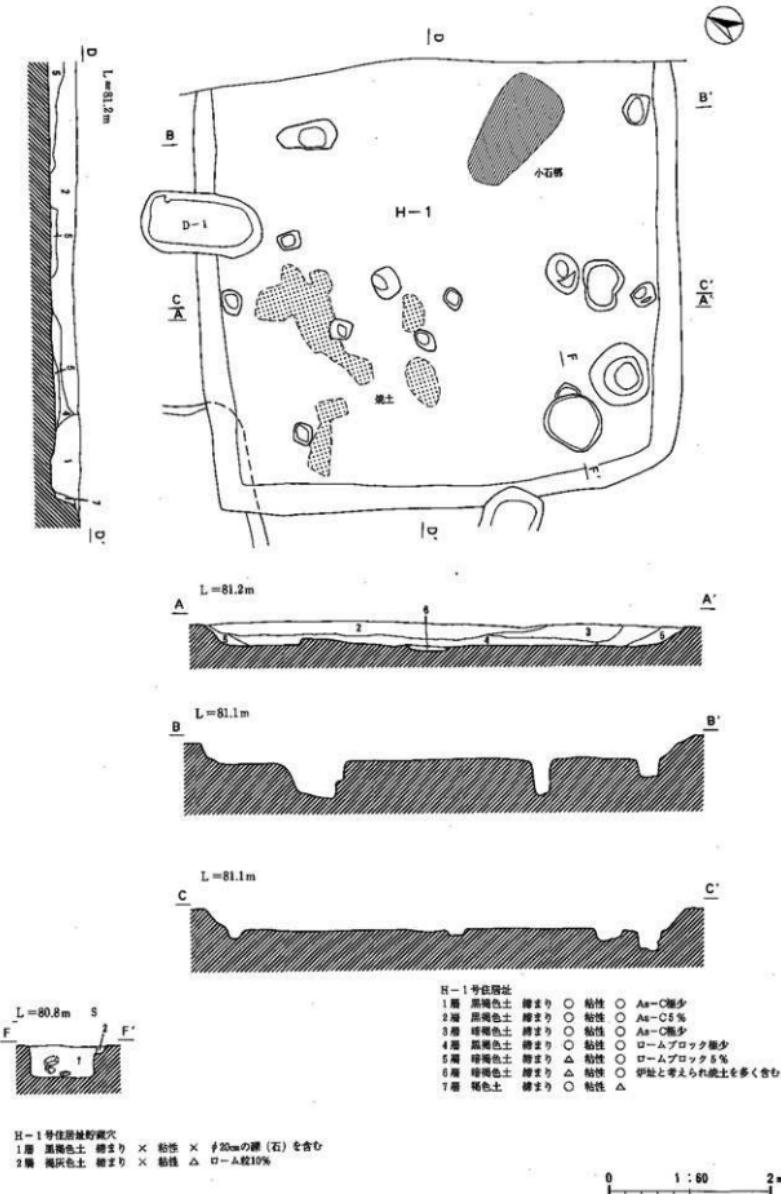
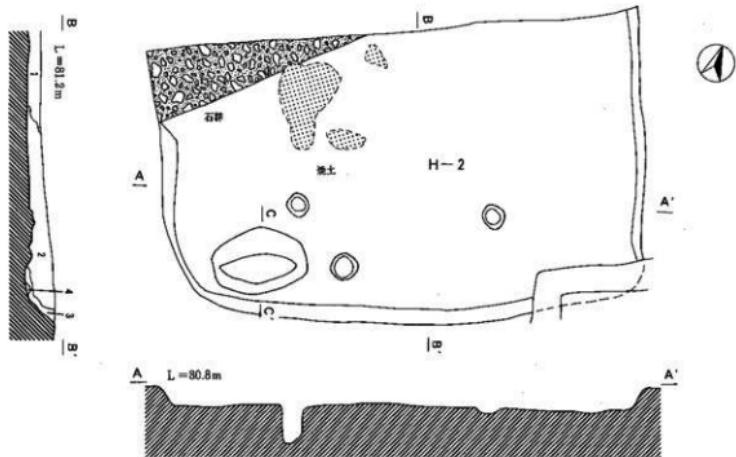


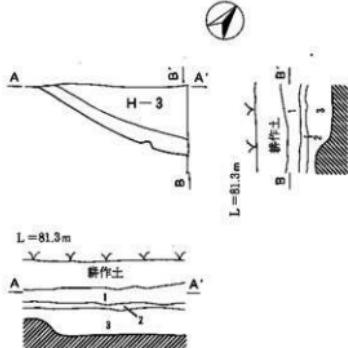
Fig. 6 H-1号住居址



H-2住居址貯藏穴

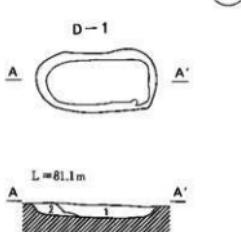
1層 黒褐色土 緩まり × 粘性 × As-C5% ローム粒1%
 2層 黒褐色土 緩まり × 粘性 × ローム粒3%

C C' L=80.8m



H-3号住居址

1層 深褐色土 緩まり ○ 粘性 △
 2層 黑褐色土 緩まり ○ 粘性 △
 3層 黑褐色土 緩まり ○ 粘性 ○ As-C極少



D-1号土坑

1層 黒褐色土 緩まり ○ 粘性 △ As-C極少
 2層 塗覆色土 緩まり ○ 粘性 △ As-C極少

0 1:60 2m

Fig. 7 H-2・3号住居址、D-1号土坑

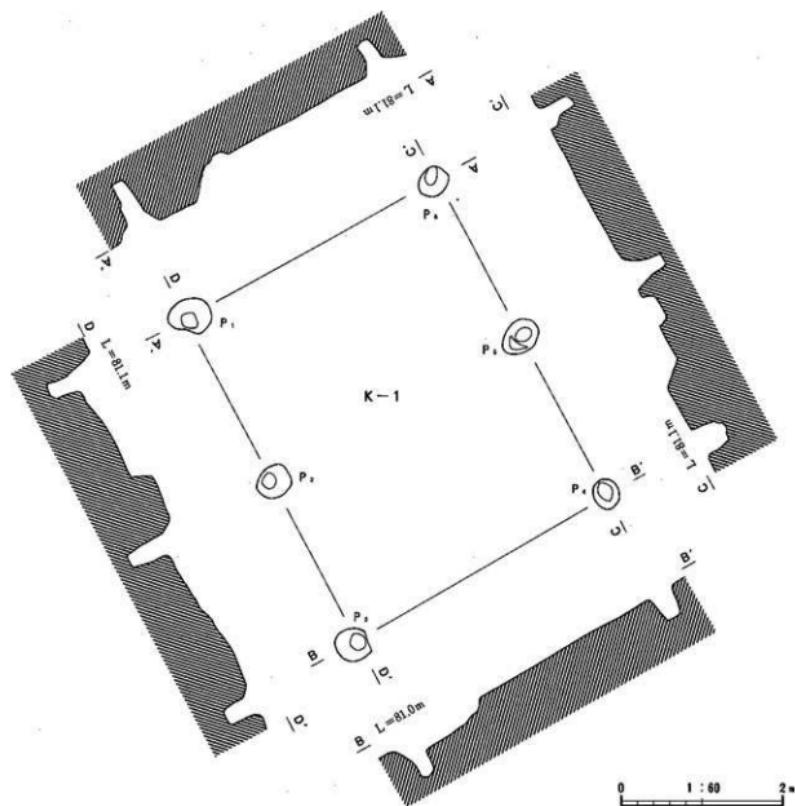
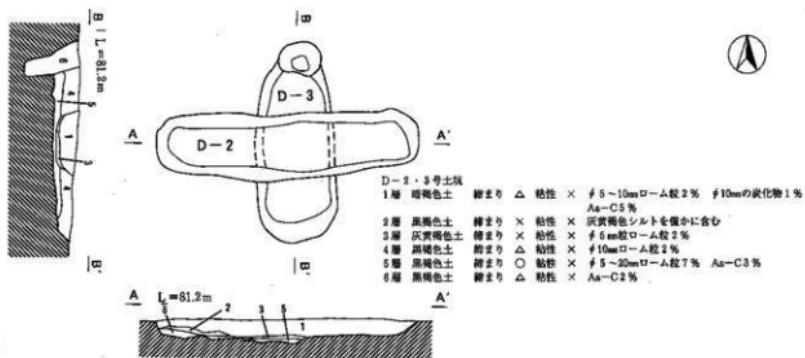


Fig. 8 D-2·3号土坑、K-1号掘立柱建物址

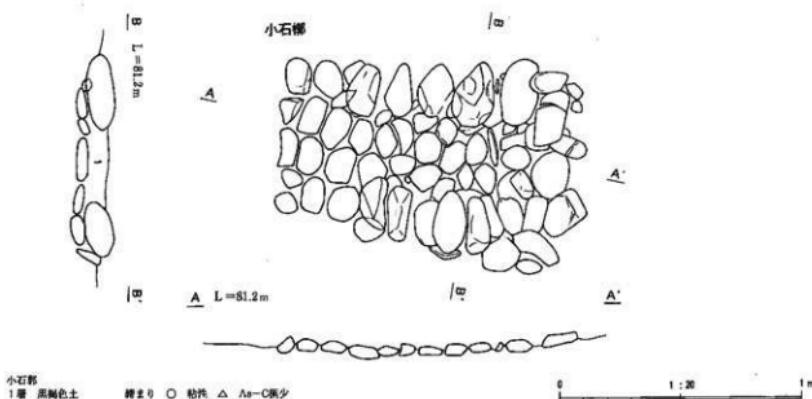
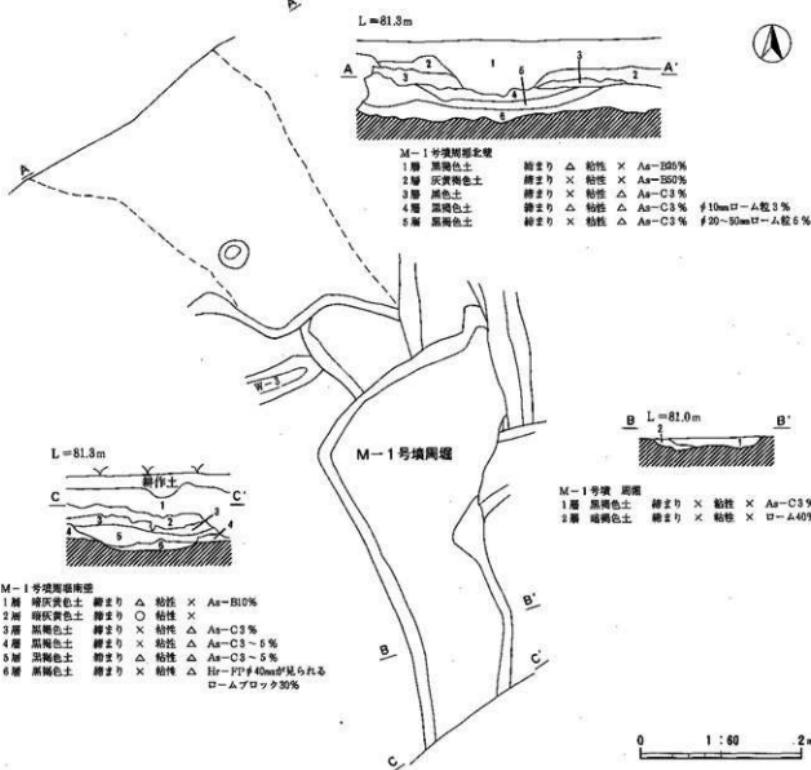


Fig. 9 M-1号填埋場、小石標

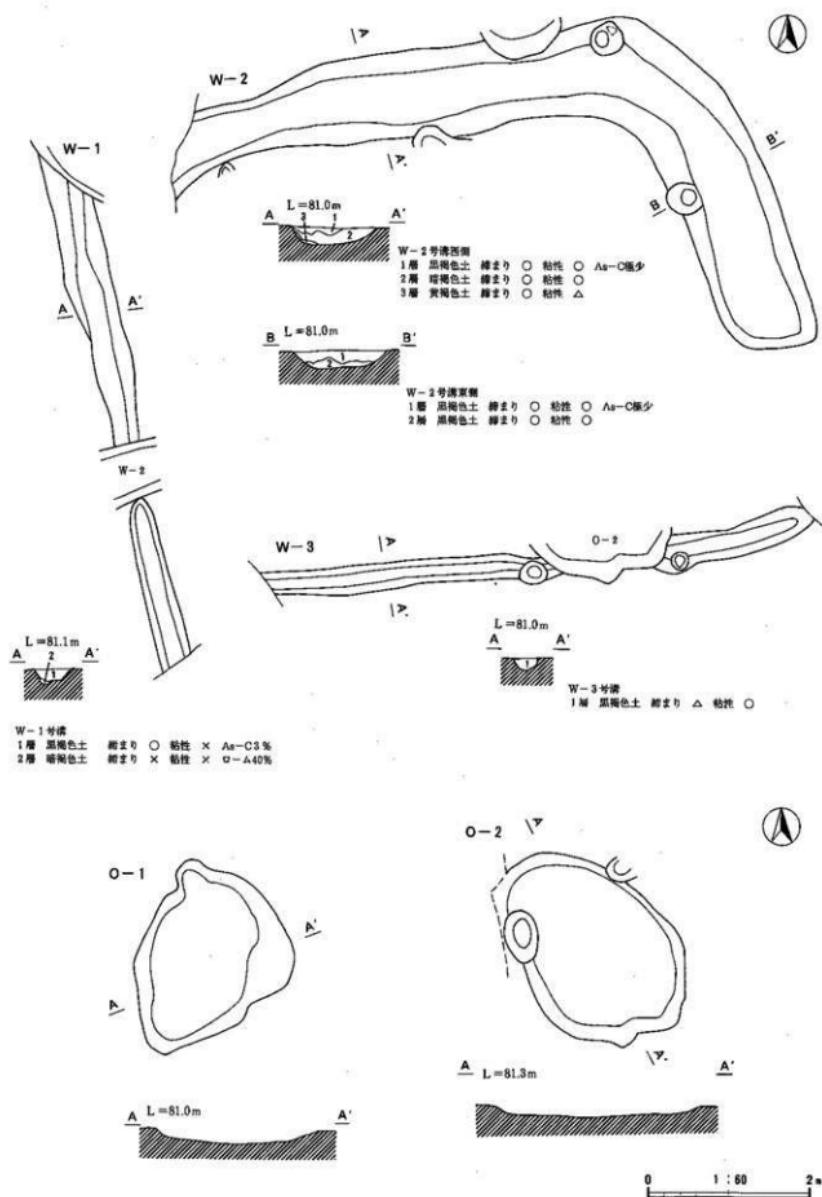
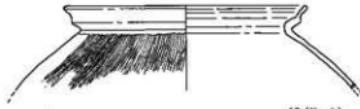
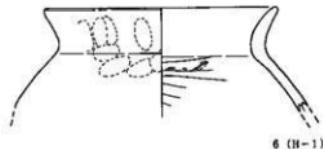
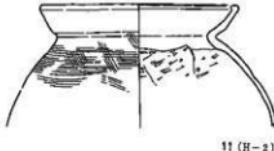
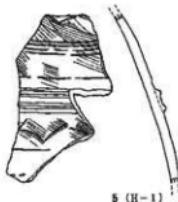
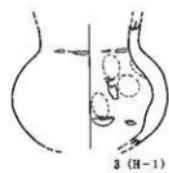
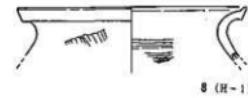
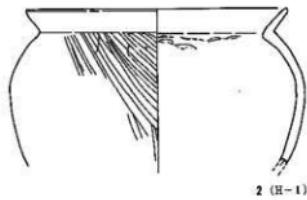
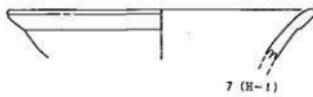


Fig. 10 W-1 ~ 3号溝、O-1・2号落ち込み



0 1 : 3 10cm

Fig. 11 H-1 + 2 出土遺物

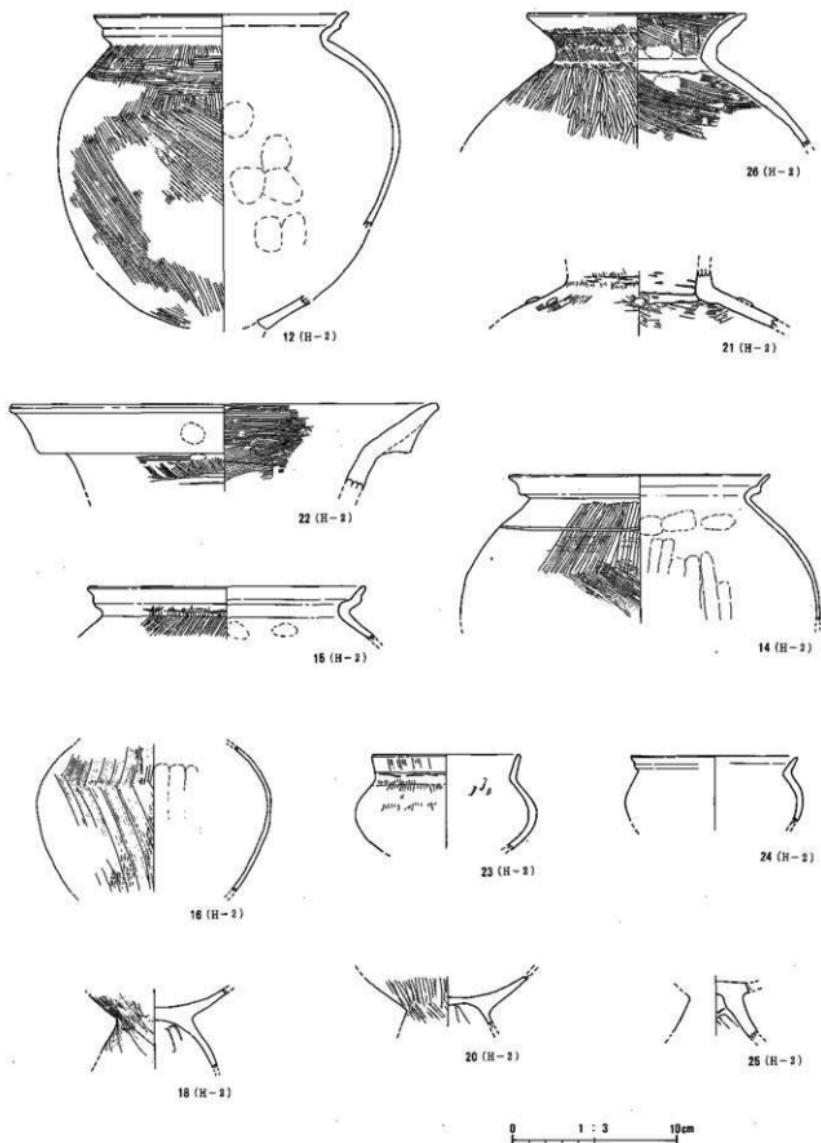


Fig. 12 H-2 出土遺物



17 (H-2)



18 (H-2)



27 (X1, Y18)



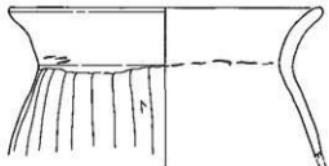
32 (W-1)



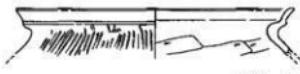
34 (X1, Y18)



38 (O-1)



33 (W-2)



28 (O-1)



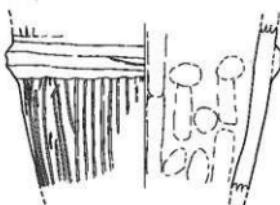
1 (X0, Y18)



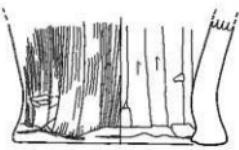
29 (O-1)



31 (O-1)



2 (X1, Y18)



3 (H-2)

0 1 : 3 10cm

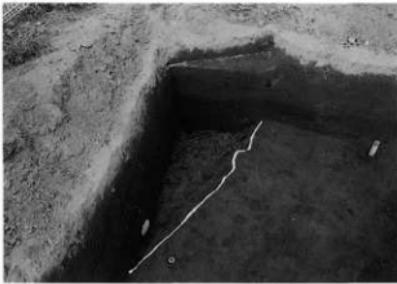
Fig. 13 H-2、W-1・2、O-1、グリット出土遺物



調査区全景（南より）



H-1・2全景（南より）



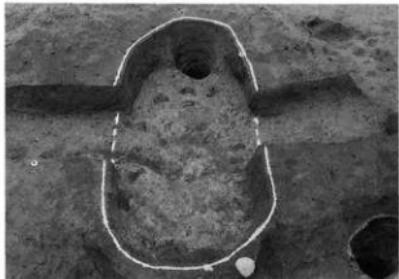
H-3全景（西より）



D-1全景（北より）



D-2全景（西より）



D-3 全景（南より）



小石壠全景（東より）



小石壠全景（西より）



W-1・2 全景（南より）



W-3・M-1号墳周縁（南より）



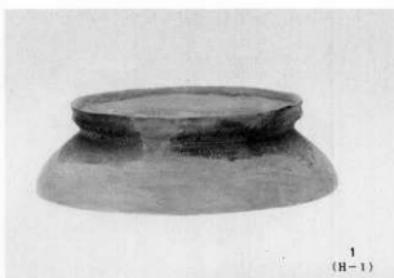
H-1 出土遺物



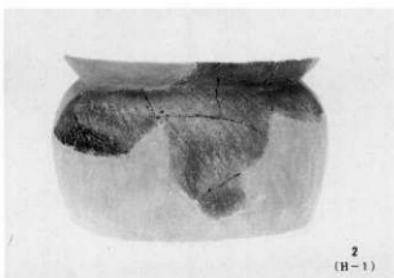
H-2 遺物出土状態



H-2 遺物出土状態



1
(H-1)



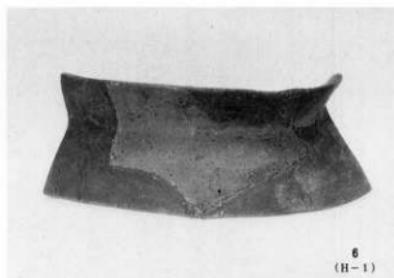
2
(H-1)



3
(H-1)



4
(H-1)



5
(H-1)



11
(H-2)



12
(H-2)



14
(H-2)



21
(H-2)



23
(H-2)



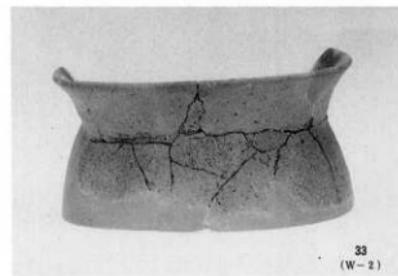
26
(H-2)



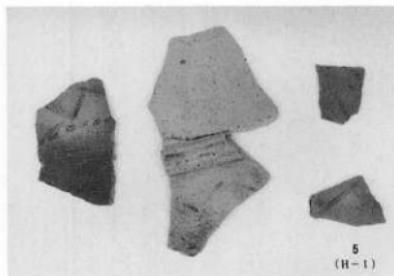
30
(O-1)



32
(W-1)



33
(W-2)



5
(H-1)

抄 錄

フリガナ	サンノウカミヤニイセキ
書名	山王若宮Ⅱ遺跡
副書名	老人保健施設増築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	小峰 篤 吉沢 貴
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
編集機関所在地	〒371-0018 群馬県前橋市三俣町二丁目10-2
発行年月日	西暦2001年3月23日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	道路番号	北緯	東経			
サンノウカミヤニイセキ	マエバシサンノウマチ	10201	12G18	36°20'49"	139°07'39"	20000818 20000925	275m ²	老人保健施設 増築工事
山王若宮Ⅱ遺跡	前橋市山王町							

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物
山王若宮Ⅱ遺跡	住居址 古墳	古墳時代	住居址3軒、土坑3基、溝3条、古墳周堀	土師器(石田川式)、埴輪片
特記事項				

山王若宮Ⅱ遺跡

平成13年3月20日 印刷
平成13年3月23日 発行

編集発行 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
前橋市三俣町二丁目10-2
TEL 027-231-9531
印 刷 株式会社 開文社 印刷所
前橋市大手町三丁目18-7
TEL 027-231-2597